

2024年3月期 決算説明
中期経営計画「グロアアッププラン2024」



CODE : 4275

- 2024年3月期 決算概要
- 2025年3月期 通期見通し

財務部担当執行役員 岡本 英夫

- 中期経営計画「グロースアッププラン2024」

代表取締役兼社長執行役員 金子 洋文

- 質疑

2024年3月期 決算概要

決算概要

< 連結損益計算書 > 累計

(単位：百万円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	差異	増減率
売上高	36,008	36,577	+568	+1.6%
売上原価	27,321	27,075	△246	△0.9%
販売費および一般管理費	6,046	6,149	+103	+1.7%
営業利益	2,640	3,352	+711	+27.0%
経常利益	2,910	3,600	+690	+23.7%
純利益	2,246	2,598	+351	+15.7%
期末配当（円/株）	20	33	+13	+65.0%

特別利益 投資有価証券売却益 142
特別損失 固定資産除却損 37

	売上高			営業利益		
	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	差異	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	差異
(単位：百万円)						
化学品	20,159	20,422	+262	1,554	1,690	+136
ボトリング	4,774	5,150	+376	151	609	+457
金属加工	7,478	7,304	△173	441	461	+19
エンジニアリング サービス	4,203	4,346	+142	651	818	+167
報告事業部門計	36,615	37,223	+607	2,798	3,579	+780
連結合計	36,008	36,577	+568	2,640	3,352	+711

決算概要 <利益の増減要因 ①>

【化学品セグメント ①】

化薬分野

産業用爆薬	↘ 石灰砕石需要の減少に加えて原材料価格の高騰などにより、減収減益
自動車用緊急保安炎筒	↗ 自動車生産の増加に伴い需要が増え、増収増益
高速道路用信号焰管	↗ 人流抑制緩和にともない交通量が回復し需要が増え、増収増益
煙火関連	↗ 販売品目の構成見直しに加え、花火大会の増加などにより、増収増益
宇宙産業	- 固体推進薬開発を顧客と進行中。初号機打上げ失敗も、二号機以降の検討を継続。

受託評価分野

↗ 危険性評価試験・電池試験ともに電池開発活況継続により、増収増益

決算概要 <利益の増減要因 ②>

【化学品セグメント ②】

化成品分野

塩素酸ナトリウム	↗ 紙パルプ漂白用途の需要に対して安定した供給を進め、増収増益
過塩素酸アンモニウム	↗ 防衛用途の需要が増えたことにより、増収増益
電極	↗ 顧客在庫調整およびスポット受注減により減収、高付加価値製品の販売増により増益
過塩素酸	↘ 国内外の需要増加により増収するも、原材料価格の高騰などにより、減益

電子材料分野

↘ アジア圏をはじめとする海外需要の低迷継続、
国内は顧客在庫調整で減収減益
性能向上品や環境規制対応品などの製品開発・営業活動に注力

セラミック材料分野

↘ 国内砥石・研磨布紙メーカーの需要低迷により、減収減益

シリコンウェーハ分野

↘ 顧客の在庫過多や生産調整が続いており、減収減益
高付加価値製品の用途拡大、小口径ウェーハ市場の新規開拓とシェア拡大、
既存製品群の生産性向上といった活動に注力

決算概要 <利益の増減要因 ③>

【ボトリングセグメント】

ペットボトル・缶飲料

- ↗ 個人消費とインバウンド需要の高まりにより順調に推移。
加えて、適正価格の維持およびコスト改善の取り組みにより、増収増益

【金属加工セグメント】

耐熱炉内用金物

- ↗ 安定的成長と採算性を目的とした販売品目の構成見直しにより減収するも、
適正価格の維持や強みある商品へのリソース集中の推進により、増益

各種金属スプリング・プレス品

- ↘ 第3四半期まで需要全体が好調であり増収。
第4四半期は主要取引先(建設機械・自動車)の需要落ち込みにより減益

【エンジニアリングサービスセグメント】

建築・設備工事

- ↗ 工事数の増加に伴い、増収増益

塗料販売・塗装工事

- ↗ 前期計上の大型スポット案件の反動により減収するも、
市場環境全体は好調であり増益

構造設計

- ↗ 収益性の高い案件の増加により、増収増益

2 0 2 5 年 3 月 期 通 期 見 通 し

通期見通し < 連結業績予想 >

		2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	差異	増減率
(単位：百万円)					
売上高	第2四半期	17,672	18,500	+827	+4.7%
	通期	36,577	38,000	+1,422	+3.9%
営業利益	第2四半期	1,384	1,600	+215	+15.6%
	通期	3,352	3,800	+447	+13.4%
経常利益	第2四半期	1,564	1,700	+135	+8.7%
	通期	3,600	4,000	+399	+11.1%
純利益	第2四半期	1,173	1,200	+26	+2.3%
	通期	2,598	2,800	+201	+7.7%
期末配当	1株当たり	33円	36円	+3	+9.1%

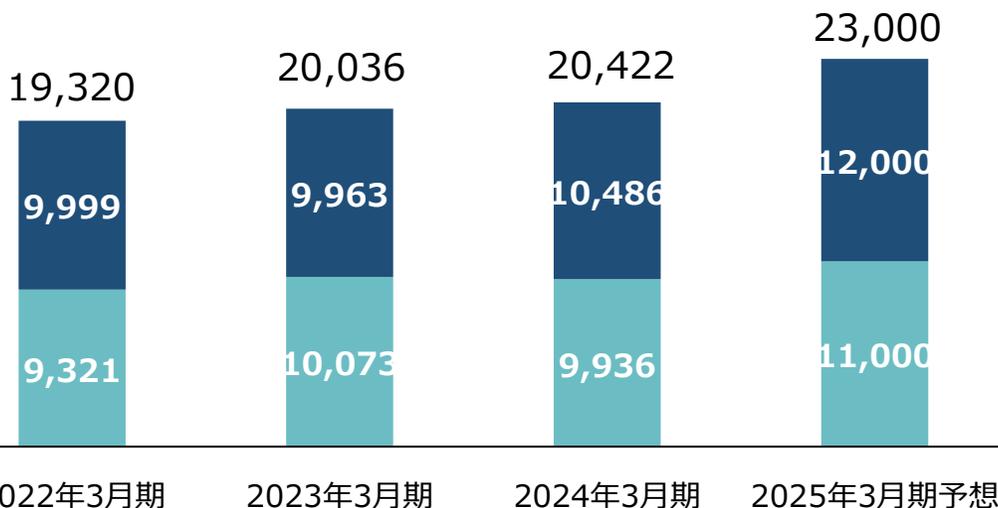
通期見通し

< 連結・事業部門別 >

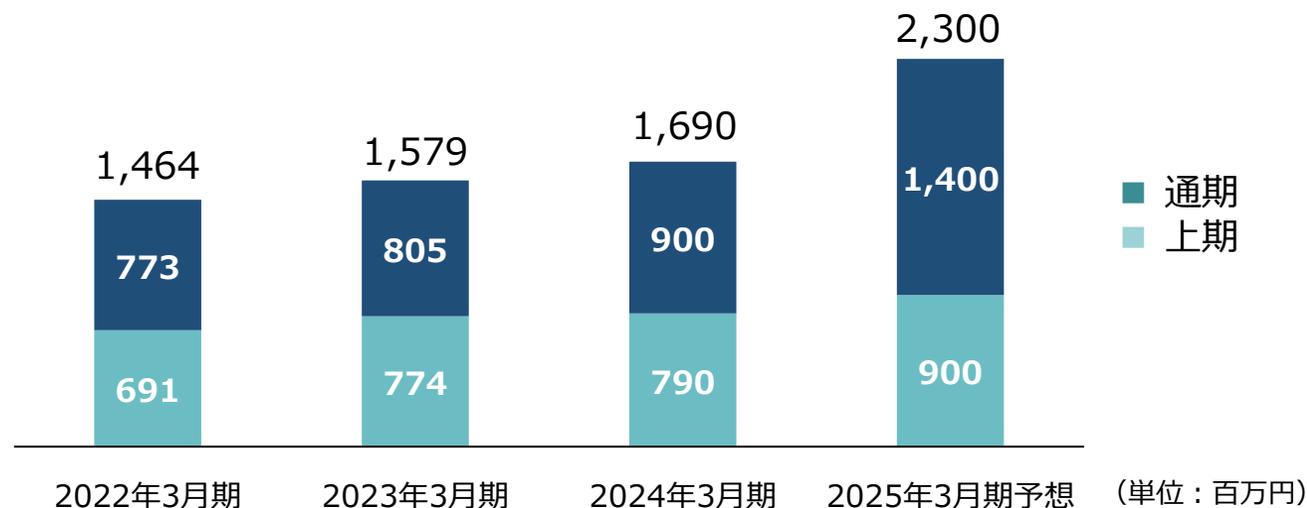
(単位：百万円)	売上高			営業利益		
	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	差異	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	差異
化学品	20,422	23,000	+2,577	1,690	2,300	+609
ボトリング	5,150	4,700	△450	609	600	△9
金属加工	7,304	7,200	△104	461	500	+38
エンジニアリング サービス	4,346	5,500	+1,153	818	800	△18
報告事業部門計	37,223	40,400	+3,176	3,579	4,200	+620
連結合計	36,577	38,000	+1,422	3,352	3,800	+447

通期見通し < 化学品セグメント >

【売上高】※注



【営業利益】※注



化薬分野（自動車用緊急保安炎筒等）や化成品分野（基礎化学品類）、
 受託評価分野（危険性評価、電池試験）は前期同様、堅調に推移する見通し。

加えて、半導体サイクルの持ち直しにあわせ、

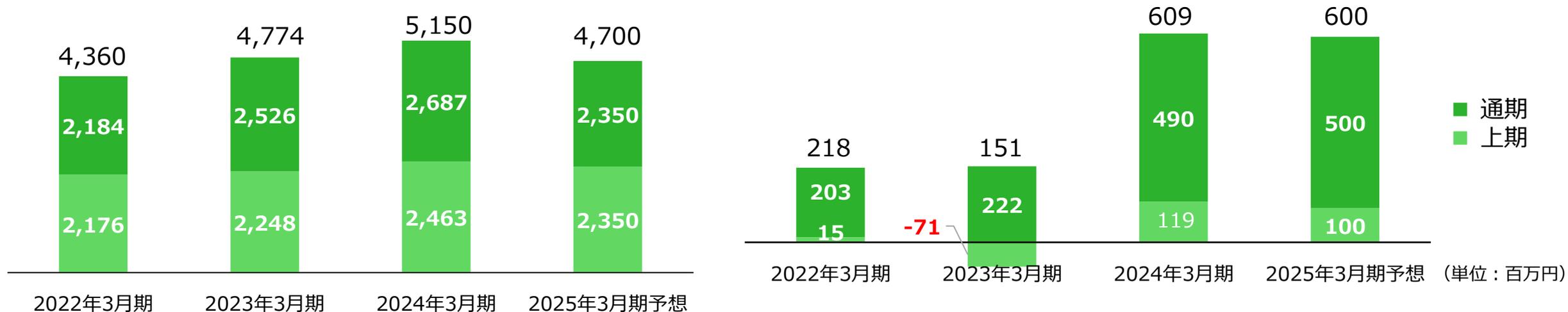
電子材料分野は上期中、シリコンウェーハ分野は下期中に需要が回復する予想。

※注 2022年3月期および2023年3月期業績は旧報告セグメントの実績値に、シリコンウェーハ分野の実績値を単純に加減算した参考値です

通期見通し <ボトリングセグメント>

【売上高】

【営業利益】



例年同様、上期に定期修繕工事の費用が発生。

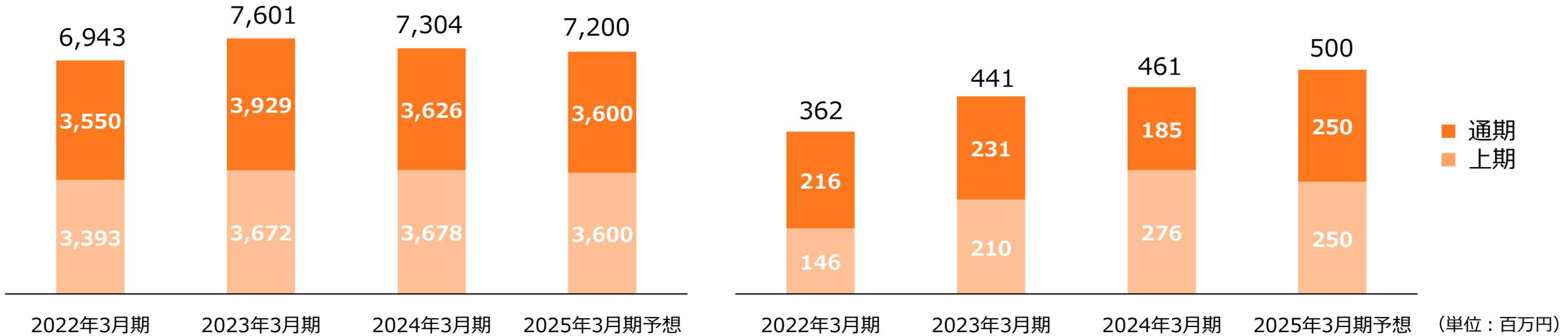
インバウンド増加による飲料需要は継続すると予想し、

前期と同様の売上高、営業利益となる見通し。

通期見通し < 金属加工セグメント >

【売上高】※注

【営業利益】※注



耐熱炉内用金物関連は前期同様に堅調に推移する予想。

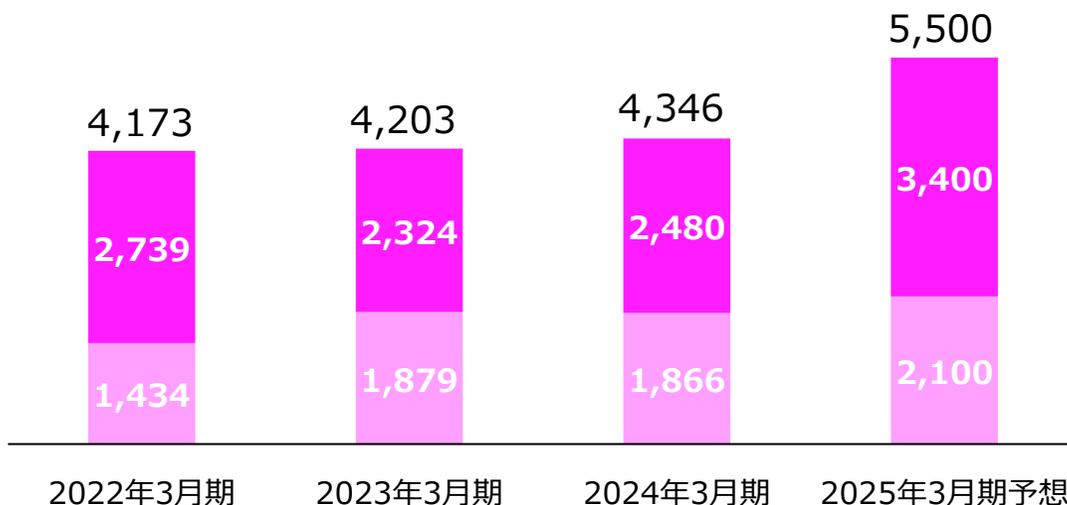
各種金属スプリングおよびプレス品は、建設機械や自動車向けの需要落ち込みの影響を受ける見通し。

適正価格に向けた値上活動の徹底や、強みある商品へのリソース集中に挑戦し、増益を目指す。

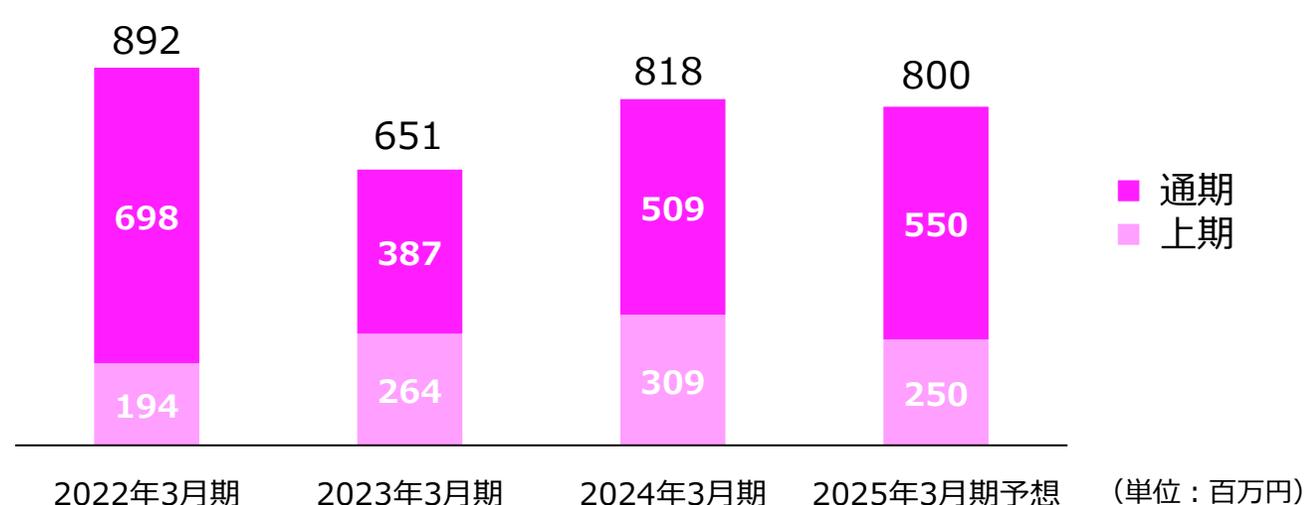
※注 2022年3月期および2023年3月期業績は旧報告セグメントの実績値に、シリコンウエーハ分野の実績値を単純に加減算した参考値です

通期見通し <エンジニアリングサービスセグメント>

【売上高】

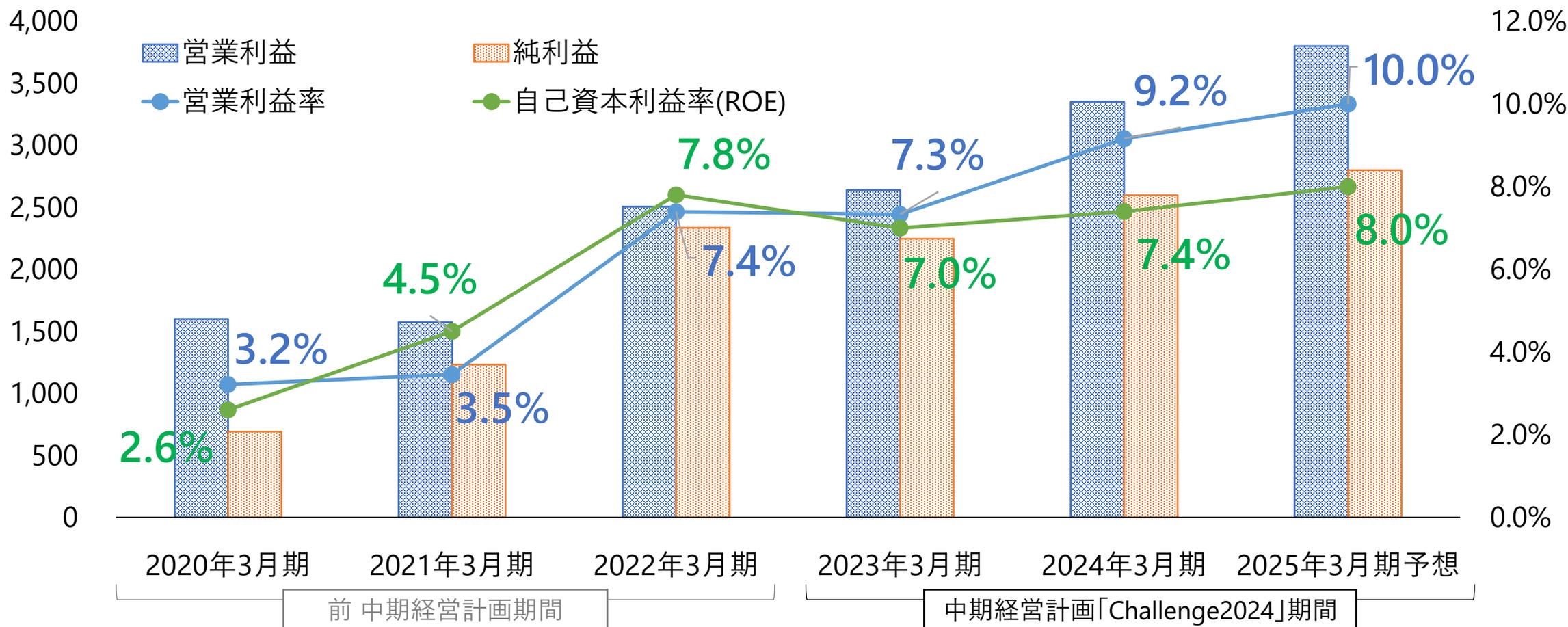


【営業利益】



建築・設備工事では競争環境の激化傾向が続くものの、
自社内工事・施工だけでなく、公共工事等の建設案件の獲得に向け営業活動を実施。
塗料販売・塗装工事や構造設計は市場環境良好。前期同様、堅調に推移する見通し。

資本収益性の推移と見通し



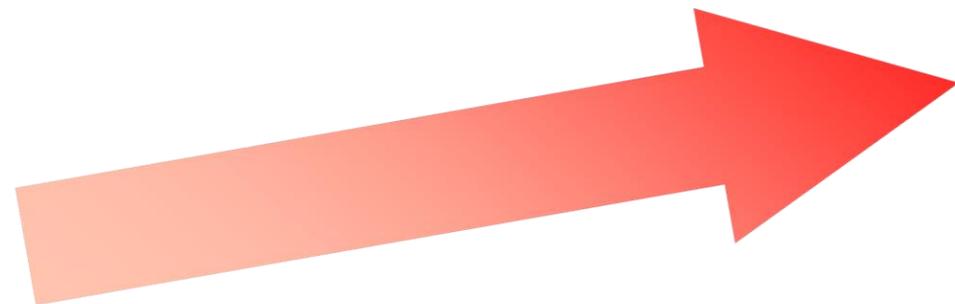
ROEの目標達成に向けて...

- 連結営業利益率 10%の達成
- 投資案件への適切な資源・資本配分
- 各事業セグメントにおける営業キャッシュフロー最大化の推進

中期経営計画 Challenge 2024

グローバルアッププラン 2024

中期経営計画 Challenge 2024



グロースアッププラン 2024

ローリングプラン 2023

2022/6

2023/5

2024/5

経営環境の振り返り：環境変化

◆ 2023年～2024年における環境変化

社会・経済環境

- ✓ ウクライナ侵攻長期化、中東紛争過激化による、世界情勢の不安定化
- ✓ 物流業界 2024年問題による運送コストの変動
- ✓ 電子材料や半導体材料需要の低迷が継続

上場企業に対する要請

- ✓ PBR向上を目的とした、資本収益性や市場評価の改善要請
→ 2023年3月以降、更なる進展が期待されている

◆ 2023年～2024年における当社の状況

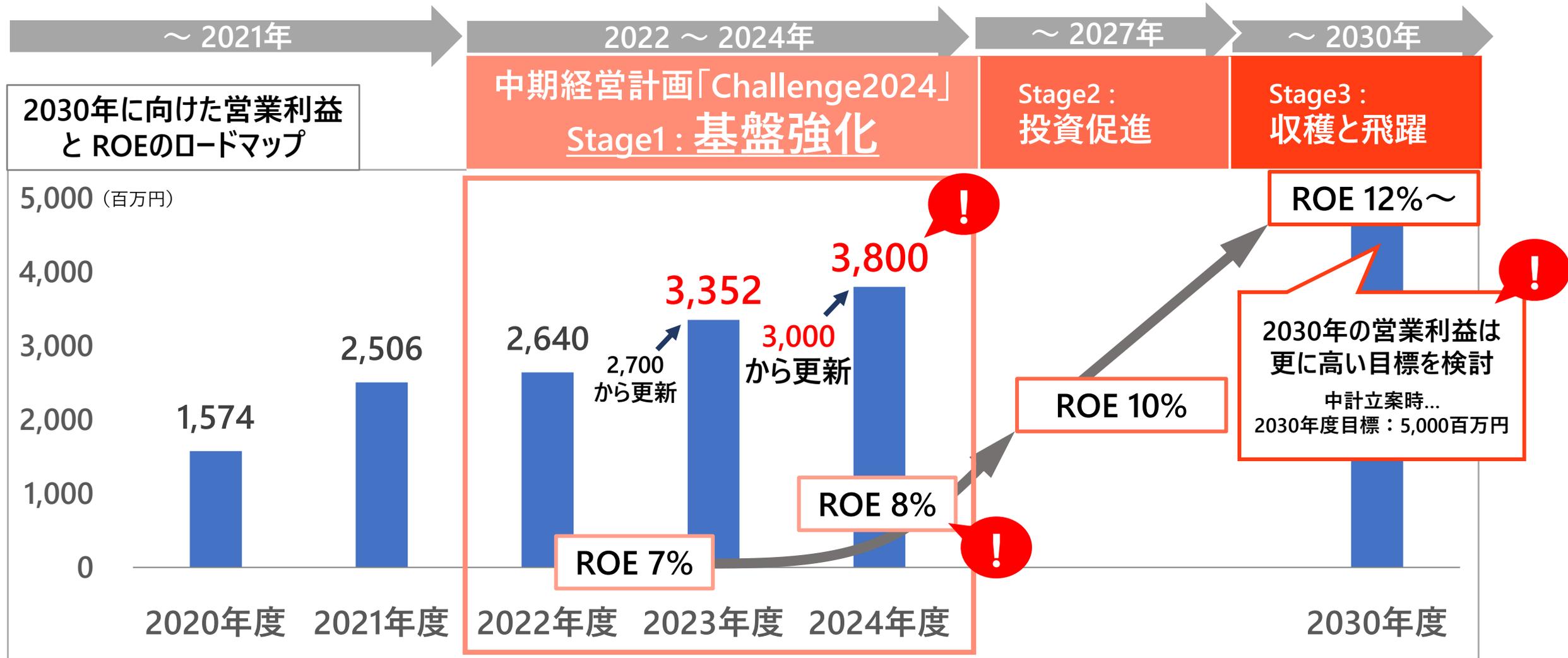
- 過去最高益見込。中計「Challenge2024」目標営業利益を前倒して達成
- 中計「ローリングプラン2023」にて掲げた資本収益性の改善は道半ば



▶ 更なる成長に向け、「グローアッププラン2024」を策定

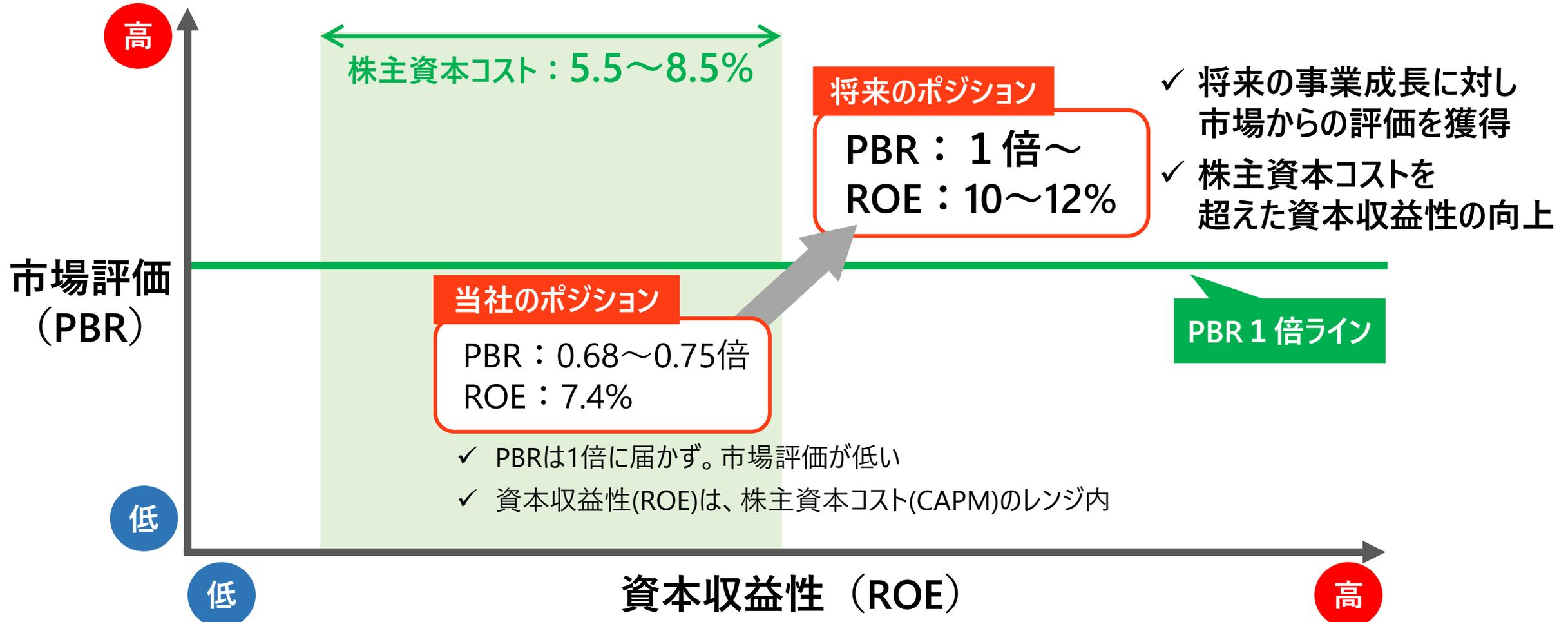
2030年に向けたロードマップ

◆ ロードマップにおける営業利益目標値を更新



資本収益性と市場評価に関する分析

- ◆ 資本収益性と市場評価に関するマトリクスにおいて、当社のポジションを確認
- ◆ 中期経営計画「Challenge2024」、「ローリングプラン2023」に加える改善策を検討

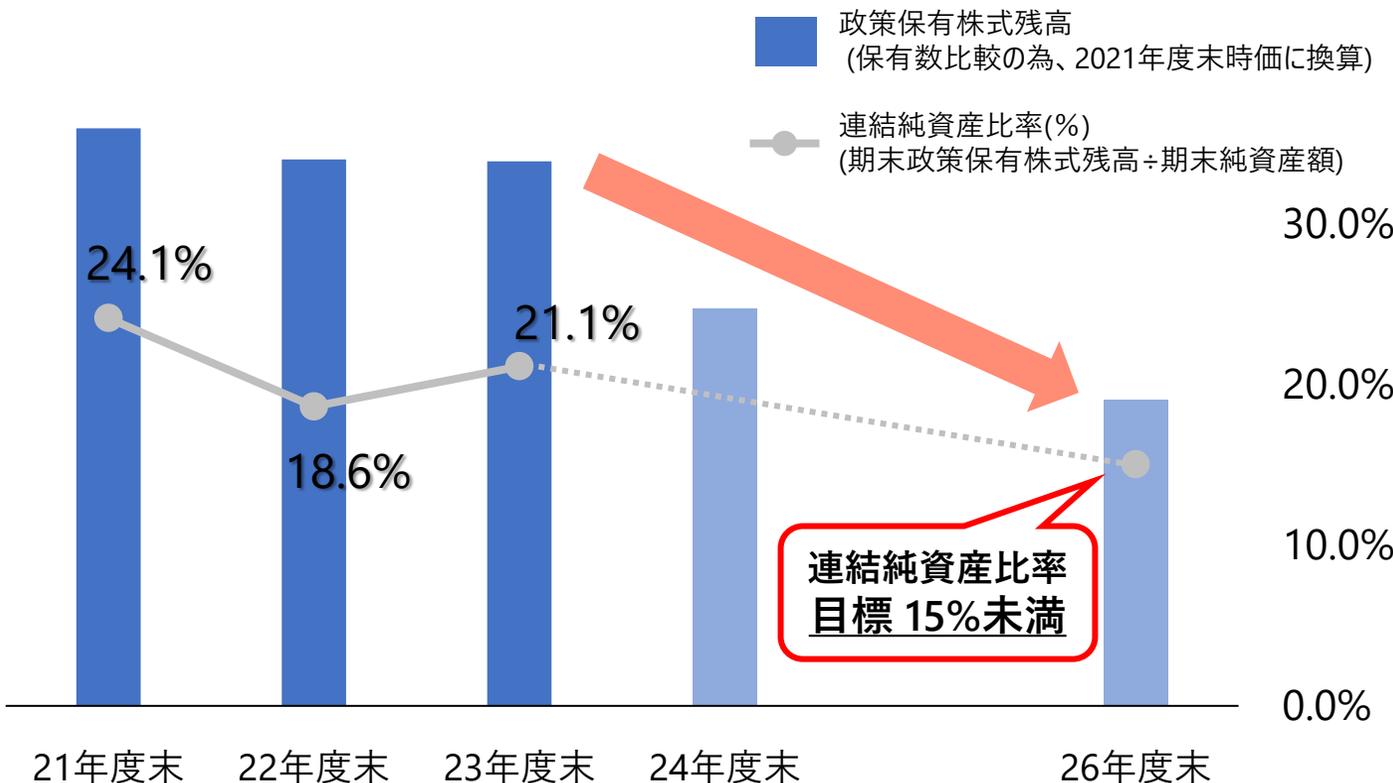


政策保有株式の縮減方針



(中計「Challenge2024 ロールングプラン2023」より抜粋)

- ◆ グループの更なる成長をファイナンス面から実現する、バランスシートを意識した経営
- ◆ 政策保有株の縮減を進めていき、資産のスリム化を推進する



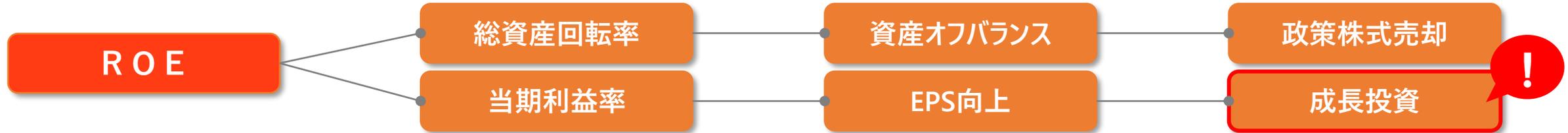
外部環境

- ✓ 直近の株高を背景に、連結純資産の比率が上昇傾向

縮減方針

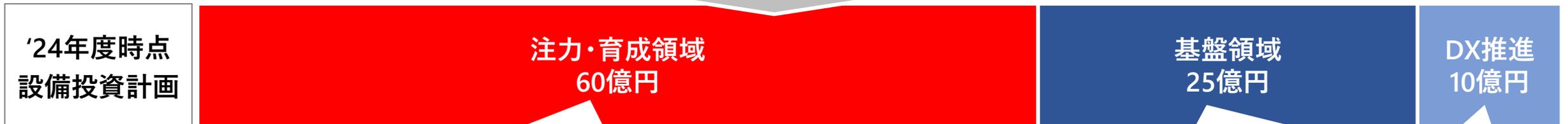
- ✓ 資本コストなどの指標を総合的かつ中長期的に勘案し、政策保有株の縮減を継続的に進める
- ✓ 26年度末 連結純資産比率 15%未達を目標に縮減を推進

設備投資計画・成長投資の進捗



(中計「Challenge2024 ロールングプラン2023」より抜粋)

- ◆ 収益性の高い成長投資案件を優先し、スピード感をもって推進
- ◆ 基盤領域（低ボラティリティであり安定収益が見込まれる）事業への投資も着実に取り組む



✓ 注力・育成領域の投資案件は高い収益性を期待

- 過塩素酸アンモニウム事業：25億円
- 受託電池試験事業：20億円
- シリコンウェーハ事業：10億円
- 研究開発：5億円

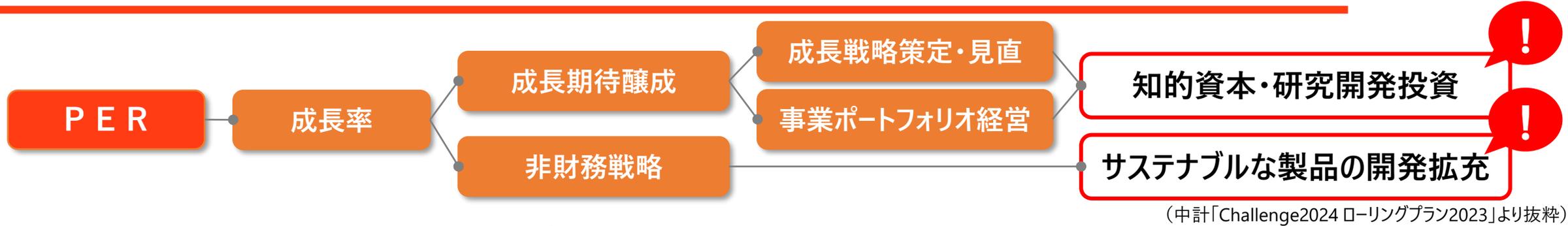
✓ 基盤領域の投資案件は収益性が十分であることに加え、

- 爆薬・保安炎筒事業：10億円
- 省エネ・再生可能エネルギー関連：5億円
- その他 老朽化更新・効率向上投資：10億円

基幹システム最新化等

安定収益や省エネ効果等のESG視点も重視

研究開発の推進による成長期待醸成



- ◆ 研究開発における「2030年のあるべき姿」
 化学品・半導体分野に特化し、新製品を生み出し、新たな事業を確立する

中期経営計画最終年度の取り組み

1. 電極事業の新たな挑戦

新規蓄電デバイス材料、水素発生電極(NEDO共同研究)、CO₂回収

2. 電子材料事業の新たな挑戦

イオン性導電材、高分子導電材

3. 光・半導体事業の研究開発拡充

高付加価値ウェーハ材料の開発、光学材料の研究

ライフサイエンス

カーボンニュートラル実現に向け、
クリーンエネルギーの更なる普及

エレクトロニクス

スマートフォンなど電子デバイスの
更なる高性能化・超越

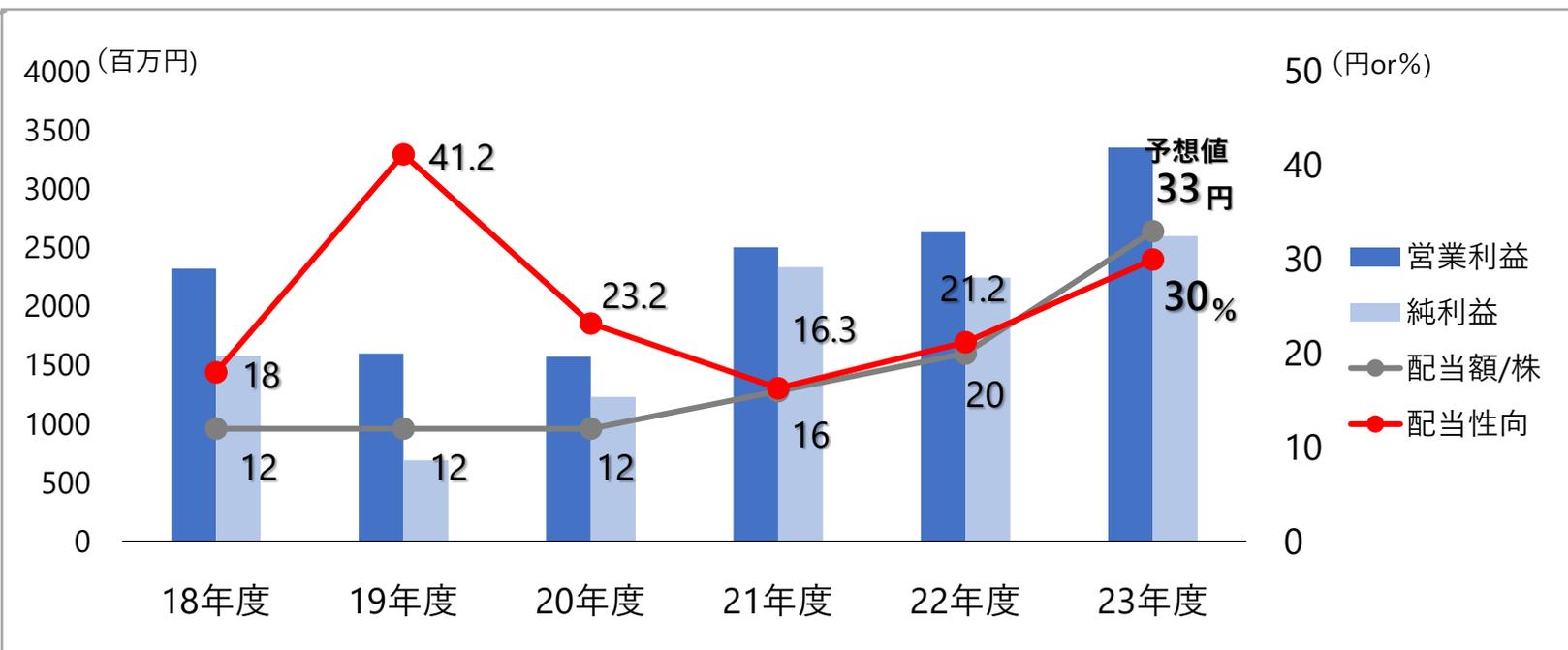
実現する未来の姿

業績連動型の安定配当



(中計「Challenge2024 ローリングプラン2023」より抜粋)

- ◆ 適切に財務レバレッジをコントロールし、自己資本水準を最適化、健全性を維持
- ◆ 営業CF・資産売却等の原資を、投資と株主還元戦略的に配分し、収益性と成長期待の向上を目指す

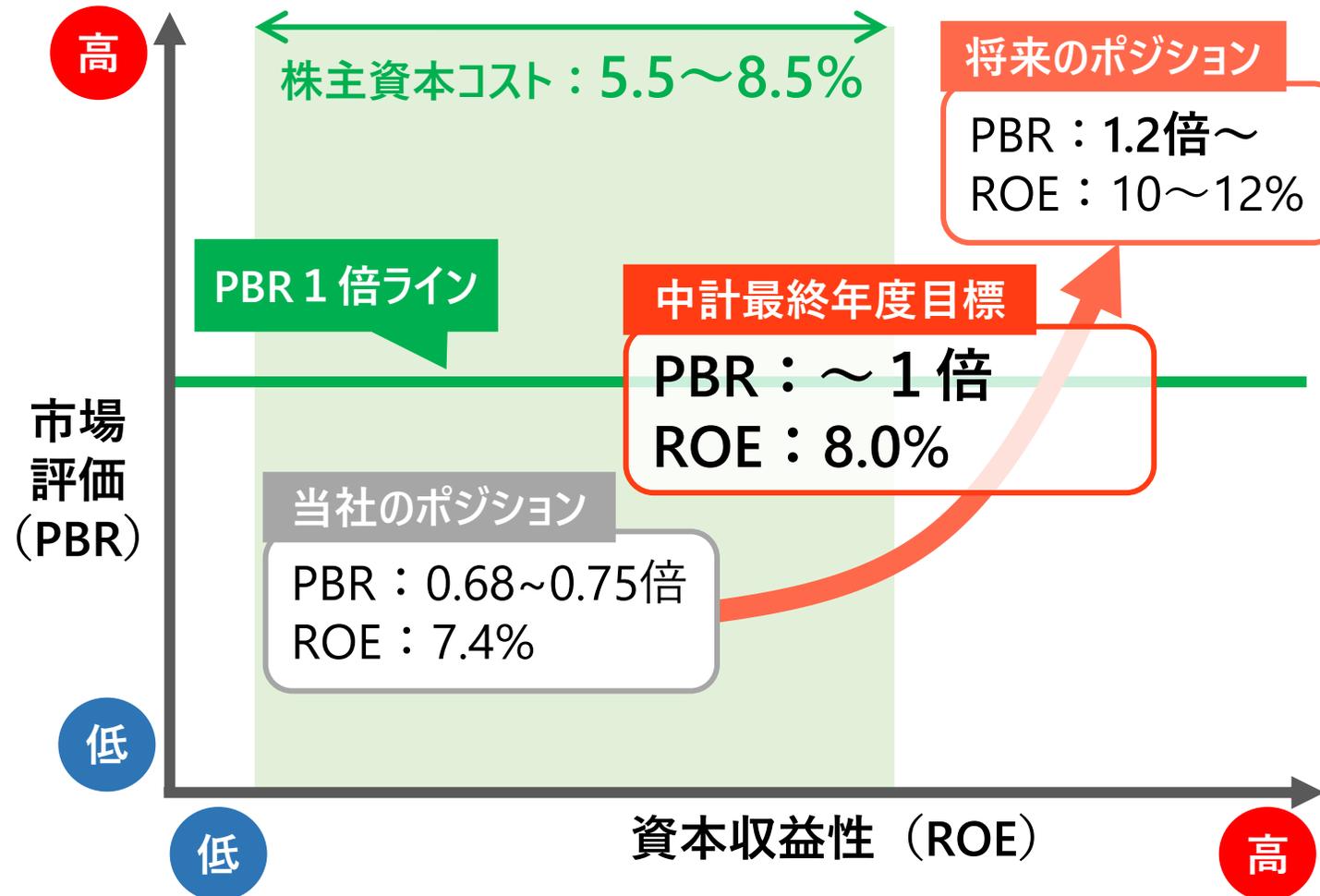


✓ **成長投資に取り組むとともに、総還元性向[※]を30%として利益還元をめぐる**

※総還元性向 = (配当支払総額 + 自社株買い総額) / 当期純利益

中期経営計画「Challenge2024」最終年度に向けて

- ◆ 2024年度は.....中期経営計画「Challenge2024」を骨子に、「ローリングプラン2023」の取り組みを継続
そして、「グロアアッププラン2024」で更なる成長を目指す



中計最終年度の具体策

1. 中期経営計画「Challenge2024」の達成
2. 経営方針 営業利益率 3%~up の達成
3. 財務戦略の推進による
自己資本の最適化・資本収益性の改善
4. 設備投資と研究開発の推進による
成長期待の醸成
5. 適切な株主還元の実行

カーリットホールディングス株式会社
経営企画部 広報・サステナビリティ推進室
メール： pr@carlit.co.jp

本日はご参加いただき誠にありがとうございました

信 頼 と 限 り な き 挑 戦



無 限 の 可 能 性 を カ タ チ に